

## 石尊社と石尊祭り

石造物について、今までに馬頭観音や水神についてご紹介してきましたが、今回は石尊社についてご紹介します。(内海)

本山は神奈川県伊勢原市にある大山阿夫利神社おおやまあふりじんじやです。別名雨降り山と言ひ、降雨のご利益があるとされています。干天が続いた時には各地の農村から代参者が送られ、雨乞いの祈願がされました。江戸時代には、多くの大山講おおやまこうが大山さんげいに参詣し、各地に大山道と呼ばれる参詣道があったそうです。

昔から水を得ることが難しかった明野には、6基の石尊社があり、かつて青年達による「石尊祭り」を行っていた地区もありました。そのうちの一つ、戸崎地区には、天保13(1842)年建立の石尊社の石祠があり(写真1・2)、戦前までは石尊祭りが行われていました。土用の丑の日に青年達が赤い鉢巻・赤い褌ふんどしを付けて、竹を川にさし、お神酒みきをあげてお祓はらいをします。その後、元の服装に整えて橋の上で「おせんぐり」という祝詞のりとを唱えたそうです。干天が続いた時には、大山だいさんに代参を送ったこともあるそうです(写真3)。

石尊祭で唱える「おせんぐり」は、千回繰り返したためそう呼ばれ、明野町内では口承で伝わったので、各地区で微妙に祝詞の文言が違います。大山阿夫利神社が公表している祝詞は以下です。

慚愧懺悔 六根罪障(ザンキザンゲ ロクコンザイ) 大峰八大 金剛童子(オオネハチダイ コンゴウドウジ)  
 大山大聖 不動明王(オオヤマダイシヨウ フウドウミョウ) 南無石尊大権現(ナムセキソウダイケンゲン)  
 大天狗 小天狗(ダイテンコウ コテンコウ) 一龍礼拝 哀愍納受(イチリウレイハイ アイミンノウジュ)  
 南無婦命 頂礼(ナムキメウ チョウライ)

現在、明野で石尊祭りを行っている地区はありませんが、お隣の韮崎市の岩下地区では、現在も石尊祭りが行われています。8月15日に見学に行ってきたので、ご紹介します。

暗くなり始めた頃、地区の人たちが石尊社とその通りを提灯で飾ります。石尊社の石祠も注連縄で飾り、その前には、祝詞が書かれた掛け軸が提げられます。石尊社の前には、祭り衆が祝詞をあげる際に座る石がもともと設置されています。7時、手拭いだけを巻いた男性陣が石尊社の前に集まり、お神酒を飲んだ後、石の上に座って祝詞を唱え始めます。掛け軸に書かれている祝詞を、100回唱えます。

かつては、石尊社の前を流れる水路の水をせき止め、男衆は水を浴びながら祝詞を唱えたそうですが、現在は水質の問題もあり、バケツで水がかけられます。昔と違い、水を得ることが容易になった現在でも、その苦労や尊さを忘れないために、そして子ども達に伝えるために、このような伝統行事が今後も続いていくことを願います。

